

第 2 5 1 回 都市懇サロン レポ ー ト		『国土交通省 Project PLATEAU について』 ～3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクトについて～	
講 師	国土交通省 都市局 都市政策課 細萱 様	開 催 日	2021 年 6 月 8 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	2001 年国土交通省入省。 都市計画課、内閣府地方創生推進室、川口市役所 都市計画部長等を経て現職。		
お話の概要	<p>2020 年末に国土交通省から発表された 3D 都市モデル「PLATEAU」をテーマに以下 1～5 について説明を頂いた。</p> <p>1. 概要 ⇒ まちづくりの DX 事業の全体像について</p> <p>2. 3D 都市モデル ⇒ 「PLATEAU」は都市計画基本図と航空測量データを掛け合わせ 3D 化している。2020 年度はリーディングプロジェクトとして公募により全国 56 都市（約 10,000km²）を国直轄調査で実施した。地方自治体との連携により既存データを活用している。</p> <p>本 3D 都市モデルは、一般的な 3D 地図と異なり「CityGML」により構築。「CityGML」は建物等（オブジェクト）を定義し、これに名称等の都市空間情報を付与（セマンティクスとジオメトリを統合）している。また、LOD 概念を導入し、詳細度の異なる情報を統合的に管理する機能を持つ。</p> <p>3. ユースケース ⇒ 2020 年度は地方自治体、民間企業等とともにユースケース開発の実証実験（まち歩きの疑似体験等 44 件）を行った。提供価値（視覚性、再現性、双方向性）を高め、使える場面を模索している。</p> <p>4. 整備・活用ムーブメントの惹起 ⇒ 2021 年度以降、地方自治体が主体となった整備・更新の動きを活性化させる必要がある。Project PLATEAU Ver1.0 の成果を「3D 都市モデル導入のためのガイドブック」シリーズとして公開（従来の国交省らしくないデザイン）。モデル生成システムや PLATEAU VIEW 等のコードもオープンソース化している。</p> <p>5. 今後の展開 ⇒ 3D 都市モデルの中長期的展開に向けた課題（データ整備の効率化・高度化、ユースケースの拡充、都市計画 GIS の高度化）が示された。担当者として、全自治体で 3D 都市モデルを整備するのが目標である。</p>		
	意見交換	<p>・「PLATEAU」について ⇒ 基本的に高精度の情報ではない。航空測量から得られないライフラインや地下街等の情報は 3D 都市モデルに馴染まない（セキュリティ上の問題もある）。</p> <p>・全国展開に向けて ⇒ 地方自治体における人材育成は現実的に難しいか。民間業者との提携（維持・管理を含めて）が必要と考えられる。</p>	
記 録 者 の ひ と こ と	<p>昨年末の公表以来、じわじわと関心が高まり人気を博している国交省の 3D 都市モデル。三次元により感覚的に都市の状況が把握できるため、まちづくりの場面での活用の可能性を感じた。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行》</p>		



■ LOD 概念のイメージ



■ PLATEAU VIEW による 3D 都市モデル

